



1 2 3 4 5 6 7 8 9

20

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

2m

1

0

1

0

JAPAN

Tama

明治廿三年九月五日購求

古今和歌集序

東方

學林

遠書

鬼神化人倫夫婦莫宜於和歌傳譯有二義

一曰風二

曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌

若夫眷屬之疇花中

物皆有之自然之理

也然而神世七代時質人淳情欲無和歌未作逮干素

蓋鳥尊玉生雲國始有三十一字之諺今反歌之作也其

後雖天神之孫海童之女莫不以咏哥通情者爰及人代

此風大興長歌短奇旋頭混本之類雜解非一源流漸滋
鬱猶排雲之樹生自寸苗之煙浮天之波起於一滴之露
至如雞波津之什獻

天皇富諸河之篇穀太子或事闢神異或真入幽玄但見

利門號卷

224

1

上古哥多存古質之語未為耳目之觀後為聲械之端古天子每良辰美景詔侍臣預宴筵者獻和音君臣之情由斯可見賢惠之性於是相分所以隨民之欲擇士之才也自大津皇子之初作詩賦詞人才子慕風継塵移彼漢家之宗化我日域之俗及業一改和諧漸襄繁尚有先師拂牛太史者高振神妙思獨步古今之間有山邊赤人者並和歌仙也其餘業和音者綿々不絕及彼時麥澆濟人貴奢淳淳祠雲蕪葩漏泉涌其實皆落英花孤榮至至易色之家以此為花鳥之使乞食之客以此為活計乞謀故半為婦人之古難進太夫之景近代有古風者絕一二人矣長短不同論以可辨毫山僧正左得哥之躋然莫祠花而少寘如面畫好女徒動人情在原中得之歌其情有殊玄嗣不足如薰花雖少彩色而有薰香文琳巧詠物然其能近俗如賈人之著鮮衣穿洛山僧喜撥金洞鼓簾而首麾

停滿如望秋月遇曉雲小野小町之歌古衣通船之流也然絕而無氣力如病婦之乏花彩大友黑主之歌古懷九太夫之歌也頗有逸興而船甚鄙如田夫之息花前也此之外氏姓流聞者不可勝數其大底皆以絕為基不知歌之趣者也俗人爭求榮利不用旃和歌怨哉雖貴相將富條金錢而骨未腐本中名先滅於世上適為後世被知者唯味歌之人而已何者語近人耳義憤神明也昔平壤后和諧非不被採用雖風流如豐寧相輕情如在納言而皆以他才測不以斯道顧

陛下御宇于今九載仁流秋津溯之外惠茂筑波山之陰溯麥萬株之繁密間口砌長為塞之頌澤之滿耳思繼既施之風欲興之廢之道安詔太內記紀友則御文所記貫之最甲斐山國允河内躬恒若瀨門府生壬生忠岑

等獻家集並古來舊歌曰續芳葉集於是重有詔部類所
奉之譜勸為二十卷名曰古今和音集活等詞少春死之
絕名竊秋夜長况哉追時俗嘲退慙才藝之挫適
遇和譜之中興以樂音道再昌嗟乎人丸既沒和歌不
在斯哉于時延喜五年歲次乙丑四月十八日臣貫之等

謹序

右者从

飛鳥井大納言雅章卿祕事立脚點本正寫之畢

寛政十戊午年九月重鐫

延寶二甲寅歲三月發行

文化九壬申年七月求板

江戸淺草茅町二町目

湧原屋伊八

庵也と歎を人乃心とありとてよ後はのとれゆふとそ
なすまうりうるせ中にある人とわきあらむとのあれんくよ
おりふ事とうるをのぞくねようをてりひづきうたすと花
よがくうくひとあよとじうのねしもとまうけのと
くいきうもれのまう歌とすあさりうららうきもとま
もとて阿児つちとうとうめのみくぬれよ祚とも阿ハ
キとねりりを仄とく女乃なうとも脅りつけたるるの
ぬ乃ゆとくかくさりハ奇ありば歌あんつら乃む
あむくぬれのきよめめとあうほまくわせすくりとく
ひきうこ乃めくとくをあきてひめふくくまると
あくうひとくめめとめめをせうとめめをせうとめめを
とくめめをせうとくめめをせうとくめめをせうとく
めめをせうとくめめをせうとくめめをせうとくめめを
めめをせうとくめめをせうとくめめをせうとくめめを
めめをせうとくめめをせうとくめめをせうとくめめを

えへやまなほにてそれやうがんわうとよりふたりはすくまう
ともみをあらうちめ乃るやれどのまもうりつみせうをわうりふ
ありてゆうかうやうれううふうとく

よひよいたとく

我意はよむよきとくありそ海れ渡乃
まことよそにくじとしるたうぐ
あれはれりのま木をきくあつまてとくになりあ秋をうぐれ
ふきんたうきされどくちのそへあとまくやうされとくしまを
くらかくへ次广れあづ乃くわやうくあり風とくもあうぬくふ
うきひきじくうじあかうやうきふく
りきく

りきくりくらなまきせはつまうりくせ
乃くう被くう雨とくうなうぐ

あれはれのうのうりたーくとくうりあき乃くうううりだくめう
あらうくん山極あまてきとくう不花歎くむ風あくねふ

ひのうひくひく
うれとのひしむとくうきりまたくをくらうりと
よひくふとのほくうきりとくうなうぐ

よまはせとくめて稀はくうからみくをくがんわう春
よわうきくうきくようのうとくふをき拂うきうんうるやまくうる
ひくふきくうくとくえあます一きとくかんと乃せやうくうよ
人うか花よなうりようううとあうなる秋ちううきうの
もとくれとくきくうくはくよくはくよく本のくまく
とくたうりてまめなうとくはくよくはくよくとあくを
ほくを事のうとあくはくありふくうりそのもくうとあくを
うくあくかんわくぬいめ(乃よくれみくまくまく花
乃あく秋け月乃あくとくまくぬくとあくく
くもくはくをはくくまくとくまくとくめなまくあるはく
とうくとくとくまくとくまくとくめなまくあるはく
てあるなむとあくとくまくとくめなまくあるはく
おはくありとあくとくとくまくとくめなまくあるはく
それふよあくとくとくとくまくとくめなまくあるはく
うひ方にとくたのくわよあまくあくの煙くよ

そくと人をあひねあちゆよがまひひきの御住乃え
ねをあひよいの處にありて男山れしとるを
てまき一弓をうねるまわすとひてそなへさ
めくらえまぬあくふ花れらるとん秋乃タクレ
のそらめりふとまくわるはくとくうのうをじ
ゆる書と波ととたを起ましめ水乃ありとみで正
身とれどもさあるはまのほきくがうりて時とくふ
ひせよとしあくとくうきくむうとくからけのま先
波とくけ野井れあとみ秋もまくらをとある
河うきあまのとくう紀とくくわるふくれ竹乃
うきくとくよひのうとひうてせやとく
ミカクホとくわくとくとく金とひまくそんをあく
橋もほくまくとくとくとくとくとくとくとくとく
先きくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

鶴めりこりきんのむりとくよおわきくらうる
ききあらうせの人をあくうみひつとからううれ
きをくもとありとくりとりうる一秋のゆくと龍
田川はあくうりみちとみとれわりんくふ移とくすひ
まわわれたう一秋のれくくはくまくはくよはくと
のとなんあわくうるえ山のあらあくくわいくわいく
うくふあやくたぬたむりくり人れ、あくうかくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくとく
なうのみとくとくとくとくとくとくとくとくとく
人れああくそれとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あらうと何うせきなん方えよあかくわをらまくらう
あふかか乃とせれ歎あくらどもあまくらくらう
ひとりからたりからりあまくわれう種うくらどく爲
えぬとあひよなんぢるがの時すまくはる年
りちとよあすりせばくまくあんなりよけりす
幸とセラシとあまくすむんあからく波のまみ
ととくよけりくらぬくに今とはあやほくまうな
きくよきくわくふちくせあそろ名をあたる人
をとがりも傍と遍歌はうるまくはくくれもむと
すくなたと公あようけかとうかとくそてつけくよ
くとくよけくよ

あまみどりとくらうきて白あとまかとゆりまくら柳
よあまねんりとあふくら葉とわくわくむ
おなよめくわくらうりそとわくとくらひくはうる
きく我わくよとくくくく

あく鶴あまくとくくくはくあくあく花く色あく

てすりひのくわくくとく月やくわくまやりのまくくぬくま
きくくうとくのくわくくのあいとくくの緑く花のゆくとくくくく

あん庵乃やくひくはくはくとくとくとくとく

かりひづくわくく乃とくじくぬまくくんくとく

吹くふせ乃とくまくれくわくれく山風とわくわくとく

はまくみとくはくまくまくまくまくまくまくまくまく

やハあくはくはく山乃はくはくはくはくはくはくはく

一めとくりくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

つさくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

れくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

らきとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とそりよきわらひのうさむれねとうとくすみわらはりえ
かまひと大友のうゑゆがきのそゆつやくわなま
をすよ
わふくにわらひよくめうと
きしもあひとくわらひをくわらひをくわらひをく
きしもあひとくわらひをくわらひをくわらひをく
きしもあひとくわらひをくわらひをくわらひをく

みわのうゑくうれぬとく梅のよねうううれ
ひわううとくにあをたあのせふらとくにあを
きをうとくあひしてそのせぬあくとくふ
よいとくとくあひあひのせあくとくふ
けんとくのうゑくうれひうま
くわくわのうゑくうれひうま
くわくわのうゑくうれひうま
くわくわのうゑくうれひうま
くわくわのうゑくうれひうま

乃せふとくわれとて史書みをじ月ナソよ大因ださ
れどりむり行まろとく海のあわらまれおとくま
くひ乃きく度りかふらんとくち海のけ府をよ
れくみおりふぢりきくれてあえくとくゆくとくゆ
れくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆ
れくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆ
はあよつてとくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆ
とくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとく
のりあはまえ秋冬ふとくねくとくねくとく
えくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
古今りくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとく
て山あはあれきくとくゆくとくゆくとくゆくとく
ゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆく
きくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆく

紫ハ春乃花すかひとくわくしてひあさの秋
れのあくよばくとれそくのとくらみとおれうて
御を寄れよくらめとくまひくおれよくらのふ
くくめゆくとくらめとくまひくおれよくらのふ
ひましれてこみ事れ時よあはばあんじくらひゆる人
まちあくありみされと放乃じとうと被ふりかみ
ひ時うきり本くらきみかくじゆえふともの
ろくとれとわくはやわ強やまろいとあくはくはくは
くね教うとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
みのゆくへ城あわきといと城うしゆくめうと

東山和歌集卷第一

東山和歌

あそぶもよろんむをひくれふ枝よぎれす

秋月は

人ノ次

さくわくそめに取りきはまくわぬ雪乃花のゆ

成今いとくとれむまきやいま地のす

二束乃花れまう雪のもよじふときあくら時正月うるおまみ
よかくとも月をとむわひに日をてりあくも乃う
らふうりうり多とすまを経る

春乃月のむりふわる我あれとくらむ雪とたるそ

まれむりうるとまか

まろけくねと

能くらえめとものもよれはまやこ里と花をらるる

ちのめよる

からうれじとがほ

はるとむらやまとまくわうんまやふとあくにわが

まくらめく

まのくも

まくわと人きくよむきれあくぬくまくハアくとそくよ

寒年乃清時まくはえれお令のく

深まくは

黄風よとくらむ乃ひとくにうちある雪や春れくつま
むのくと月乃きくら小たくてそまくまくあくよやう

大にす里

まく乃風くらむくらあくハまくらとくとくれうもくゆ

立原株栗 楽平野良男

秋月は

色人ちくは

乃ちくと雪やとれむきのなく明るくはれあくち
春日壁へとくふうやまくそゑあめつまをめとれり根をと
うひうらくちあひのくりわてみよとくくらてくくらだ
み山よ松乃木くくらまくに放そくらばりうがたくら
様ゆくかくてもああまくつぬあはくまくはくうがくと
仁和乃木くくらまくおりゆくうめよくうわくまひくらく

あくもまみれ掛れあてううかげし我あてよ雪ハ薄く
秋月すまきとくねまくらくとくまくまをまくま

春日批毛口うかほくとくぬあひ神ひりとてみ乃りえ

毛一枝

をよりま羽は

春れさうや鷹乃衣ぬ。とどうすと山風よもうみそつてえ

安平所時あい乃ゑめあ合ふゑる

深むゆきの野ト

さき、あらねぬ縁もまくれと一あ月にちまきりき

あきそちまとわりとせりとせりとせりとせりとせりま

けゆき

衆きとう衣ちるさあわくしての乃もひそきまくら

ま核れ魚もりくほ美ありそみれて花のわくら縁よ

あたまれき乃核とくわく

修ふ遍服

ゆき深つとよりうきと白病とゆふとゆうま乃柳り

毛一枝

みくとも

毛くちりまくらの裏ハれとてあくまくせ狹を前

をまくれとけきもとくぬ山中にお月づくもよくら

ひくもとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

美うれと居うみうりと都ノ乃もゆきうふとや難

ゆるとえる

伴努

美うれと居うみうりと都ノ乃もゆきうふとや難

毛一枝

えゆく

わりは黒六袖とう白梅花あゆとやうす小萼うなく
色うも萬うあつれとおり不ゆれさう神かくの富士梅
花くちく梅むうへわらさなまう人みふあらまく
獨多たらううらうり河じうりくらうじうみそむ

梅もとおてがる

毛一枝

毛一枝

まくらうみてのすと梅花句りてうみんむくうの風や

毛一枝

毛一枝

まくらうみてのすと梅花句りてうみんむくうの風や

毛一枝

毛一枝

あくまくとて彼ヌコタチヘ梅花うらうとある人そし

毛一枝

梅もあくまくはくとて西へ東へあやれくあくそほくらる

月あくしきららむかまくいえしゆくもえがまくすくらる

り松

月夜よはうよどひのよく梅柳習うとふひてそちくうりき

ほりくわむめうくまくすくらる

月のよの風もあくまく一葉をとこうだくねくやくお

ものさくまくつるよかくわまくまくあくよくともやうて

かくまくくわくまく

とくとほよくわくわくめくわくめくわくめくわくめくわく

めくわくめくわくめくわくめくわくめくわくめくわくめくわく

よれやふくそ樹乃あらせハ春乃人とのことをうす
いづれあたなぐりれ樹もとどりてわらんぬれあ
るそのやくよくした樹もとといそりてひまつに
みきを、柳橋とし給はまぞおそ春乃萬をもりる
橋乃花のこしておれをゆうととをきうてうむる
きともとらか、其れもとゆうをわくあり
根修る橋と修る けじゅ
キのととめて、からけるまなびとせんゆれを
おきそまきまわる橋とば後てまわる
橋もさむよく、もと引のゆれひうちとゆるもと
定まく間からひえの放合のく
みよ、管れ山よけの橋をもとあるまづる
アシラム八月あくもくもく見え
アシラム
橋も裏くわれかみへど、今んであれ山はせぬ
くうのとまくうりふくく、くもはらう人のくうりする
わくわくとくらうたて、根橋もとよ庵をあつとめ
きよしはあす、船とて海ほ清とひまと水船とて
船とて、あらかくもて、まん花乃らりあんほがみよ
わあわの花とくにうん、へらりあんほをあくも
まよだ秋含のとだもあく海舟
みよとあくの橋とくはるあんのらをま

古今和歌集卷之二

春水下

江口直政

えみやくら

春水下うかひく、岸櫻花うわろりとや色うらりせ
まことひれじてーとまうねかく、何と桜よあひま
残なく散そめてたゞ桜もあひとせゆはてぬう風
こらさへひゆめ下うらむちりゆうひよ御簾
うのきしるふとあくらうせあ桜さくとみよひの萬葉
傍山遍照ふよそあくらうる

桜花ちくはちくあんらう波よてあひ人奈シてもみよ

春林後すそゆうるるもひらうとくとくうる

うくまほ

ゆうくゆう花ひはまかくもそを海つまくそよま
桜はまうらりゆまるとくとくあくらう

花ちくの風れゆくりい年れうきる桜よすよ行て恨ん

かくまほ

しづ櫻あめとらりあんじくまうりわらかひによくじめみも

あひくまうりきほ人のよみてうくらりふきほめらふるそ

ひよめかくえりやくらと桜もくは桜みてらうじめ

ゆくまくほとくとくあく

春水下かくらうじん桜もくまとくわとくらうじわと
みらそとくひてうくひくひくよ風よあひーとて夕行あ

のくねうあひにとくとくをくらむ桜おちうくひくわりうとくとくあ

友永かみ朝臣

桜すりとわくふ數すむあれがらうてもわらわりうれ
東文雅院にて桜のそれのうふようりくあれまくえで
うくらうくらうのうらうとくとくあ

あくかくさうひやあくぬ桜見る我さくうきのうす

梅ひくちりぬともすりひうれむをもる
梅ひくちりぬともすりほしとくらぬも風とさきわゑ

梅のまみれ友と後

紀入ととり

久堅めえぬけもまめ日おもいふく花のりくしん

まめあまちづれのうそと梅れもめうそとまもる

夜あらーく

春風ひむらわくりとすてあをんほくやうのうをえ
さくわうとまもる

九月内もる

せよくねくじわると梅ひづふちとまく風れくえ
ひまかのりくとくらゆくとまもる

山あらわくうさく一梅ひづふくは風くち

むりく

大根と風

まめあらは風うきく花ちくと梅ひづふくは風く

う子度あきえ秋

けくゆき

梅あらうめの風ひもくらひみは水うきく花くさく
なくみくのけく

うくとく

かくうれ教とくばくく波荒ハ實くわ

まめうくとく

くとく

實手代當時からうえのあきれ秋

まめ性法師

花の本とくハ海のうき一春もそばううよもふ人かくひく

むりく

うきく

まめあらうめの風ひもくらひみは水うきく花くさく

けくゆき

みく山をあうとくもくまめ霞人よあくまきぬ花や空にん

うきく

うきく

りまきはまめあらうめの風ひもくらひみは水うきく花くさく

うきく

うきく

しきまでうかくよめあらうれんをちくはくを風く

後く

うきく

まめあらうめの風ひもくらひみは水うきく花くさく

うきく

うきく

まめあらうめの風ひもくらひみは水うきく花くさく

うきく

うきく

吹風よらうてく風くうれんをあくまきぬ花くさく

うきく

うきく

物もあぬものあきよきむなしけりとめと振りてうるうる
まよ乃所のあらはれ故合ひ

花原抄

さく花をちくさかしわくあれと根うがみと根うえ
まよあまらちくさかしわくあれと根うがみと根うえ

花原抄

花のいもゆきをまづれとけく風ハ花うそをまづ

うろくおもととまづ

花うそをまづくはけのうそをまづくはけ
御一枝

典侍拾子ね

さく花をあくじとあらねあくへ我等にわく雨や
たまく井のあらねあくへ我等にわく雨や

友家後藤

花うそをまづくはけのうそをまづくはけ

さく花をあくじとあらねあくへ我等にわく雨や
うろくのうそをまづくはけのうそをまづくはけ

典侍拾子ね

さく花をあくじとあらねあくへ我等にわく雨や
うろくのうそをまづくはけのうそをまづくはけ

小野小町

さく花をあくじとあらねあくへ我等にわく雨や
うろくのうそをまづくはけのうそをまづくはけ

小野小町

さく花をあくじとあらねあくへ我等にわく雨や
うろくのうそをまづくはけのうそをまづくはけ

小野小町

さく花をあくじとあらねあくへ我等にわく雨や
うろくのうそをまづくはけのうそをまづくはけ

小野小町

さもひまくへりうるふある。

唐りてまきひてゆくわをまかしわを
元年れぬれい乃裏のあひむす
せ風と若くわとくわうきは山のれむ朝とす
あひりうらうきはまわを花山のまがりにま
まとうらうきはまわをあひりうら

傷心遍照

まことやくゆる人よ被れまじひまつまよ教ハモリム
あはれられまけまみだらうとみだらうとみだらうとみだらうと
歌高ヒシケラ歌泥ヒシケラ歌泥ヒシケラ歌泥ヒシケラ
いすともむれにゆるそもももろうとめれだらうとめの見
まよ魚はきとけたくにまうきの歌泥巻
山歌とあやくわとけをもんとまきん夷うこひまく
「くの」の歌うよの歌のうけとまくとまく

けくやく

うれ川底の山はく風ようされやまくはく風ひはく

かりのあくわせ山はくりやうりむらううりふわす

うの歌とて

やまうら春く山はくうしむとそとまく

うの歌

河川さうまくしてうるす月れづるくわもり日れづる

うの歌

山とのうああけよハ音をもとハねうく歌ぬるうたり

うの歌

むらまつれまくとあうれとよハ音をかく歌より

うの歌

がめうとくゆくまくにまう鹿うまくゆくうらぬとお

うの歌

ちたあうきやまくとおにうひみてくまう

うの歌

かうひの日とちの日ともうつるやまとまくそく
さしひをじねど、めよけたくもらう花とてあうふぢ
やうひの日よりぬ日あればけよまほもとせりて今度が
一そろ

ゆきはうまひてせりばうむれ月はまひくわわく
ゆきはうまひてせりばうむれ月はまひくわわく

ま子産乃秋食よまのそろう

かわ林

まのとまをわづぬ時くわとまくわとまくわのうけえ

古今和琴集卷第十三

支

新

後人抄

我やの流れ故源さとようり山明あつ川うきまうん
こうまくらふ人のえだらすのくまゆ

うきまにとりぬくとよそよ

ゑくとゆまに角ヒトやまにかられてねくらん

礼

えく

まのとまをわづぬ時くわとまくわとまくわのうけえ

後人抄

冬月あはかまをうりあくへぬをあくとまかうんあそらわうあ
さとまくすいをあくわむら黒とくひはまくらの神のうけ
い津のまくらにされわん是りくら山新ふすうとくわ
あさたあさくまくら藤ある時ももがくらつれよ高がくは
あくわとあくうとくよ時ものなくあうてよあう

あくわとあくわとあくわと新ふ精くらがふくまを写ま

はくまのうくわとくわとくわとくわとくわとくわとくわとく

あくわとくわとくわとくわとくわとくわとくわとくわとく

のの作よおれまよおれまよおれまよおれまよおれまよおれま

えよおれまよおれまよおれまよおれまよおれまよおれまよおれま

時もあくちきしけハ別り一ちくそもあひうりうる
ほくおとたうきし室のまへ向まへれよあまぬもあら
うりひ歩うと紀のむち時もうれめれうちあくおあく
うみをうて波のみぬ新ふ根木もろひ川とうえ
足引れ山新ふわりもてまくまくと往とのまき
ときうよじうをか時も一とれうとそりはうる常よあけ
原よまと山新ふへいたてん新ふせ中にとくヨヒヌ
實ま行時もあらえれすのう
スナムラ

まのととなり

さみれは抱かひをまハ時もあくびいじらり境
もうちだるやまく新時も根木も根木もよき

大江重

くまうき花橋もつまゆくにかく新ふ新たしゆん
まのくゆさ

小野千

うかくまねの船ゆうえれ舟とあひとやうく山新

秋琴

友山よあひきやうりふうんぬうりたゞなう敷

秋琴

あそひ夏ゆうすに時もそれう行くぬうをみうる

秋琴

八月雨乃キモとく海よ時も行とくとく根木もく行

秋琴

郭ふとあもとあも山ひとハカラ小舟のとあひとぬ

秋琴

内も全う山よなくあれ、我うらづきに魚まくらき

秋琴

よと魚やまも魚へと時もあくべーわ船をとら

秋琴

阿もこれとあらまのむれに金井にならやうん

もじはる處をそぞらう

傍山遍照

もじほのゆうりあめぬりそれく處をそぞら河をせ

月乃昇り海よりきれあわ川さうへ移る

うきかわ

友乃石はまくす育あらし船めうとそれづつ小月やらん

うきかわとまくすくぼりうきれあらとあひよしをうきくまく

えびのむら

うきかわとまくすひちふくく源まく風くさん

古とくわす集書す

版元

秋音百十卷

萩原敏行抄居

林さぬとめふはまやくひそむれあすそぞく
秋音百十のまこととがそろそくはなづかく

アリミシタカ

かづ風せ流りとあらううらうひる波とさりゆくれ危

アリミシタカ

わきとく承乃レとそそく海とあじまき秋乃神と

昭日もうよアトヒリウカハマテソハモテ秋風せ

龍風せひめ日より久くされあまのうふまくね自臣

久雲乃わまのうれまーちもまくそりあこうりめじて

天川りみちとそくにまくせりやまくがくけめねねすもあ

あひくてあすはましお川寄立わたりあまくもあ

寛平序附あぬくようよまくあゆのことを歌そまく

アリミシタカ

かづ風せ流りとまくすうりて後が

アリミシタカ

天川河を傍あらまたとりほくまくはて絆を歌そく絆

アリミシタカ

萩原敏行

整うえんゆそくまくせ夕れゆてしゆまくはまく

アリミシタカ

萩原敏行

ひあよゑとくとれとせたれゆるれ内ねちとくあひる
セタよけけのうめうらもてすりすまくあひやうに
あひひえんはあつセタれうきほくふ筋とくうま
きあうらむれあいとくふくう

源ひのせきせき

とほとくうや時とく川とくぬそとく神とくひもゆ
風うら日後風うら日後まろそくとくもとくもとく

新月後

月後

あのとくりりりきは月の新とれをくほくとれ秋とく
大うら秋とくとく小根方とく始こねとくひもゆ
ヨウ角とくおねねりもわくかく小虫乃あまけくま
ねくに新とれ新とくとくほしりとくとくとくとく
黒とくあらとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

又

けりうれとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

新月後

後人月後

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

大月後

月とれとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

又

冬とく月とくとくとくとくとくとくとくとくとく

月とく月

秋とく月とくとくとくとくとくとくとくとくとく

秋月

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

秋月

秋乃あれ向うかとあらは汝かしハ我とおやうかう

詩一五次

よきふれしと

秋さんをもつてさねまへ葉つるのねとやうひか一
般のあはれもうとくにまつしまあむくにまつま
えくあくまよけうがでたまつちせゆそりう
旗のまにたとあくひぬまえみうちひづくじゆ
うめふんねめいもひかりよれうじていこと
わくうれまきるたゞ下日をうれぬくよすげ陰かげを
日うれまくの裏うら乃タ葉は風よりほりふとくほ
ぬ人よあくぬねうらうらるれけさかくよめく
き貞きじやうのえうあらまの会のう

秋風よ和らうのまきあらたくとくとくとくとくとくとくとく

詩一六次

わゆううむとまもれかくきよけうう風よかりふま
ひうととまくめからうめ霧めとくまとく縁えんあみ
まや鹿かのうほそとくあくらすハとそとまくある秋青れと
おとととく衣うりうむなくかくよ能のう下葉とくう能のうは

寛平乃所時もいろえれ秋舍あきやら

英承著えいしゆう新居

秋風よあとほよあうてうかかはあまのうくらるる
うれひととくひくう徑きよて居ゐよしれかとくう風かぜを秋あきめく
も貞きじやうのみのあれく会あいの秋あき

ふくう秋あきうくひくうれあのかく絆くわんよめときゆ

わくよ紅べにふくうけあく廉としれぢく御ごを秋あきうく

詩一七次

被ひもくうひくうれれぞ見みり乃山さんとくみ廉としの望むら
林はやとくうううううう廉としのめよばみとくまれまざまざ

うれしきのそらあはれと心よみを

秋原としゆさく終

秋葉乃むさんようりもあれどもの麻毛すまやなみん
りすわしきりてゆする人乃れせうてあひてものからし
えりてよよかろ

秋葉乃むさんようりれぬむくとものへとれさりうれ

きしらま

秋葉乃ト草ふをほくとうちやひよりあれぬりのうは
ゆるくらむれ歎やおちほんねよすれ葉乃とれ病
葉乃あめにねんとく経ときぬりとくん人へれあくよ
みる人の云ひあはくられみくのれ故こと
ちりてえハおちにゆくさ難葉乃ねとたがにいきるや爲
葉うれちくんあいあれよぬきとゆくとよばくとも
毛貞のそりあとのう今よ後く

吹屋あまく

秋葉乃くくらまうがむされやけしわきうふくとのじま

きしられ

あふみゆくらむううりそやくすむらめくとくまくらむ
偽ふ画服

ゆるらにまみら

秋葉乃くくらまうとくとくたうりとく
ゆくらね

きしられ

秋原定方羽呂

人乃ももとやうす死也言む能事ひのこもうちうそん
むろりのまかうほれむかはゞきかくつとを高ようすて

めくらむるくに人乃がよゝあへ持へし多き

めくらめうらむちくとせんゆわまくらやとてゆうり
寶くま行時森人所乃とめくらとされよえんとせきり
そそり時くらむとくらうあくよくらはいてよき

益樂王

むよゆうてゆうくん女良多むくらむよ移かま一地
えくまえみのまくら移合す移る

年貞元

なふくらまとくねさく膳あらうくぬくら秋もとのと演

年貞元

あらうくぬもとくにかまき秋のふまくぬさうけ秋りぬ

年貞元

とくらはうてたふかくもと高かひむけ秋をよりらう

年貞元

めくらぬまうにかまき秋のふまくぬさうけ秋りぬ

年貞元

秋のまくらぬあくとくもと高かひむけ秋をよりらう

年貞元

わまのまくらぬあくとくもと高かひむけ秋をよりらう

年貞元

みどり竹むどいまとそまくら秋のくれ花すゑをま

年貞元

わくまくらかくらむとくく秋のよあひとくまん合とあ

年貞元

月までて秋はとくらわくらぬまくらはうくぬ

年貞元

たわのえうとみくらりぬくらぬまくらはうくぬ

年貞元

てぢりききくみくらりぬくらぬまくらはうくぬ

年貞元

里ハあまてぬばかりゆるかれや在とぬうと林のゆら

年貞元

古とゆす集考す

雅道下

星貞のみくらぬの歌合のう

みまやひ

ひづるふ秋乃葉あ本れあ飛れんむふ風とほりさう花
あを本を色うれゆそもての海れ波のあまく秋あ約
秋年金一多聞よまくる紀^いと化
きみちきぬとれの山が風れあまく秋ととわる人
部^べしらは
青空をうりそらあらかと墨乃朝れ葉をりみらしめん
御音月圓曲をまくわざかくふるくらは御の御のひ
ちるやうる作あひよれ紅葉あふるひはきくらは御の御のひ
貞教乃所時後後後御前ますよしだの本をうんじにひとひと
物にける様乃きみらそーえりきりきりきりきりきりきりきり
ものもと手おほひと手おほひ

故あり地さん

もあえとま紀く本の葉あらう秋れ葉
りよと葉とま時かくはゆのとみらそーえりきりきり

枯風乃ほゆ早ちかく山もれ稍ととつてそり

あれよみやと本の葉あらう秋れ葉

主生お參

部^べしらは

秋乃葉れ葉とけふとけふとけふとけふとけふとけふ
秋乃葉れ葉とけふとけふとけふとけふとけふとけふ

烟の葉えくとけふとけふとけふとけふとけふとけふ

主生お參

秋乃葉れ葉とけふとけふとけふとけふとけふとけふ

主生お參

ちやう葉れ葉とけふとけふとけふとけふとけふとけふ

主生お參

西の煙れ葉とけふとけふとけふとけふとけふとけふ

主生お參

東の煙れ葉とけふとけふとけふとけふとけふとけふ

ちう称ともひてそきことひあへとひそりぬけ見え

風まのくあひうちきくねくよそりほそそりく

すよたせれ秋あれう秋房れう山をと立つは

是員のみ乃處のすみれ

旅房をけくはあらそくはくらせれむまくはく

秋のあとて後

坂とれのり

あらそくせれくはくらせれむまくはく

今そんじよとおじとひつをとまきる

をまかりゆくうれ

うゑうゑ秋あはれやうわん死くうちう先移く難

實平野時うそろひをゆき経ゆる

トモサ乃朝臣

冬の乃まれとあくやがれぬハわす川アリとあやす

えすはまく夜とゆくされうるる時はかう乃もく

けくまくとく

えまみまみのあら井食ふ

まよとくら

宿がくはくりてうかん菊乃巻ひきぬれうりく

大にま重

平一とれおまうとわひあじ菊うつ病よれよわんとせ
お菊沙田時うそろひうれきうれきうれきうれきうれ

うれきうれきうれきうれきうれきうれきうれきうれ

もよのくの羽根

旅風乃れとてまくはく菊ハむくわくぬる波のうら

素性法門

うらそくのうらそくのうらそくのうらそくのうら

ぬまくはく山鶴乃葉代客のまくのうのうをとせとせ

えみのまのまくのまくのまくのまくのまくのまくのまく

のまくのまくのまくのまくのまくのまくのまくのまく

起えつてまくとれひくあら神のうそわやまくねる

おねさりの連れみてとめうるとめうる

せせらうれきとくとくひうるをりよまくめまくとくとく

秋の事

秋乃事よりよりひからでん花りさんとあづか

白葉れ花と後

九月

第てふをうわれんとくあれあはまつむる白葉

うきうきみと乃あれ哥今のう

えひ

色うりふ秋乃事と二トまにあくし白葉とまうかと

白葉れ花

年下

うきうれされはうくそあ下

秋とち見て時とすまれ事乃をうづくらふるの里

人の事

年下

うきうれされ事乃は事れもまようけ一極りうるとくがる

うきうれされ事乃は事れもまようけ一極りうるとくがる

秋の事

年下

傍正色照

三ひかわもくきをあらむとひのひうきをじせん
二東ひ居のまえがゆふようすくは風川
よひまうれきうかくとううりうとほそくもく
參めれあみかとよハシカヒル治やくうん
ちやかあ祚代もさくは風川くはよあくは
まほらくらとのあれ故今のう

我さくらかとあら枝をくふあくれの數とまき
祚あしらむのゆと秋りて秋ともほんぢくは
まほまちとんとゆうれりうゆうれ

アキラとくとれわるあくゆれにゆがふるれ物をりき
松久

立田川キモヒク御のあまがうれうれのぬそくうあ
まつまにとくはうゆりからとくとく

松山里とゆくたしくまはとじ我さくとあひら
祚うひのゆとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとく

祚あしらゆとくとくゆく物あくは龍田川まくねくま
寛年月日さくらまく年合のう

白居よ秋乃れあらうれとあまのなをああくま
まくま川乃くらまくまく

もみうみのあれさりせは立田川あれおとくれあくま
立田川乃くらまくまく

川よ風れきくはく見ハあくれもありまちま
地うけしりまくはまのうくまく

風れきもくはく見ハあくみくみくみくみくみくみくみく

多子茂の清風乃多川ヨリシテ之のまくらま
れりてしもとを起てキモトトキモジシレヒシ
まくらま

あらじゆりかくとよそんにせばあくねのみ水ま
されまざまのあら秋今れ
たるも

山主の秋乃うら音よく夜はくかわやまくの清歌
秋一五

ほふをあぬの面とひく夜衣つかはれ蟲よねまみ日邊
うらの面よおうむはからくよめぬハドヒミテマス秋の歌
まくらの傍に通船とそりへりふゆうりきうじうち
おゆくハ神よと紀くとそりあんねをうまうとアソハ
寛年序時よりたすきもまきともわきまきひきと主高川
あらじかほりそ秋ときそもあくとを候る
多喜う

津ゆうりかくの秋はまくと林をうまうとひまうる
古上七

秋乃うらねと鶴田川よどひ角りてくちく

ほく

アヒレ紅葉あはれ鶴田川うかや林乃とありあま
九月乃はくとり八日大升かくらえ

夕月和すくろ山よ鷺乃あれうらすや林をくまん
移り候くとり八日大升

えつ

たあらじゆりをゆん紅葉とゆまく年を林をいぢ
古上七

多喜

えく

鶴田川鶴ちりく秋年月あくれ乃ぬとくとゆまく

冬のあとを傳る

源家平野店

山里父老をさりとてゆきりくる人めをあくれねとぞ

移り候

えく

鶴田川鶴ちりく秋年月あくめとくとゆまく

冬のあとを傳る

源家平野店

タテルを身にまといすりやむせに春登れ山よもやまひ
とよりは波えをあらさん我宿れとてだか一なまの春
わきうそおねし是乃山の浦波とおとぬまき延
二方川よきみちをあはねる浦多けの水そいぬまる
吉ハ吉めゆづらうきれはむとひをまをくぬ日りか
ヨリやぶる浦をそむきあくまめとよつてうかり其
ものうと修り

紀夷

名づれを多あらぎふまと本をもてあく修ぬ花継
あらゆらふとをもる

紀夷

白居れおとよくは浦をハいと用ゆとゆく花をもれ
をもれあへすうりうる浦はあくねりうるおとよる

ほとれ

みづめのゆきけりじたましむからまくらたり

寛あれ山のえらむ合れ

あらうるちさう

浦ちく海く雪はむ浦あれね山あくとそえれ

生春

みづめのゆきけりとみづめ花とあらまとをとくぬ
ゆきは降てはまむる山里ハとび人さやうひまやん

九月内

雪崩てふきよりぬまくわやぬくとなくとひまやん

ゆきは降てまくわや

よし

そよぐを下り花れたりくはる雪れあるとまゆやま

まゆ

冬まゆりあけゆとみづめ花とあらまとをとくぬ

ゆきはあくゆきくわりくる時ゆきゆきとくを修り

御

船波とくの月とあらまくはきゆく里のあきるゆき

もひ

あぬううよと海をあらぬともとすれよもうあ
梅死それとみづくとくわやあくだり香れありてよれ

みすはあら人のまくわゆきとくの心うき

梅れのまのあらうとく

小笠山の歌

喜乃危ハ喜びてやうアスミハトモリをもじゆアゲタハシく
まえうち乃梅れあととある。まめきくゆき

梅乃危めりあひけり事ひさうひとべねりとくちそをほ
ゆきめりあひうらとぞもとある。死れもの

ちかまはホトヒ萬を嘆よきつゆこと梅とみそま

ゆく下うらきとすらてあはれぬとわく

うきめりあひとあきと多めりれ。今あとすま花

ゆくのそにあむ

主事

うきめりあひとあきと多めりれ。今あとすま花

主事

喜乃危て年めれゆる時ふうじひよ紅葉ぬねとみえ

うきめりあひとあきと多めりれ。今あとすま花

時とひきとくしてゆきと川うくれて不くと月日あひ

主事

右と和す集き半七

笑歌

喜り

主事

我思へるをやうにまれぬいと角どめて若乃喜とま
ヨシム海れ渡乃ま高とくとくとくあうじとせのわうじと
あ月の山うとれ歟よとじみもあうて代とやうじと
う歎君と風らうふうりとてとくえあとととととととと

たわん竹田傍の風歌よせんをまきひうのゆ

主事

ちやあと神なうさんまくうからくのまくのまくのまく
ゆきうみゆきうみゆきうみゆきうみゆきうみゆきう

主事

主事

主事

主事

主事

極ありりうひきれりのとれあんとふかくとまくふうふ
まことひみをのまれとせらのがと升モ一月日も

くのうれとつ

せせれのひくつひととよりてあら渦てぬまの無れひる
まことほれとものまわはれえれすすまへきれは重風よ
まことあめりうきよのまくまくとまむ

安田めかこ

汽よほれ月日へおりてあそそくもとすくま
まことほれとれせキのまくにあれ重風よもくとまむ
まく風車へまく樹乃若夷うきくとまく

多性法師

かくよゆれわく波をあく船をじくせぐりあく見
くとじくそくまくの在へ船をあくんよう天元あ
天元三岩う年實よもく
し奈うきく
けくあどりとせ乃是へあくあくぬよゆくとまくん
あうへわう人をまくねくうく

う勢い法

万代まくを看とつひづらを乃邊よもまんとまくと
因みのまくあ大將軍主おれ長の軍旗一々向ふは重れ旗角
まくろれ重風よもくとまく

文

くらうむまく小山あ橋あわれ甚とまく骨をさ
くらうむまくよぬあわれ甚とあくとあく

秋

併れに乃邊よ秋風よかくふくよしきよの白浪
あもあくとれれ川夷もじゆのあれとまくまく
船くわくとくとくぬとれふよもくと風をうくる

冬

雪よほれくぬみよかく風よ風をうくる

まことほれとまくまくとまく

曲名重音うきく

春をうながすあらゆる風がまくつてくわづま

古と和モ集卷之八

鷄列歌

新うらか

立原玉野居

立正れつみのよれはよりうねとそととうりえん
まきはく秋れ葉落めうりてたしゆくをつのとくまん
かうりあたまわすまくにうると人とくとくまん
あらううらふらくめのうりつうりうらくめ
まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ
まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

まくらのれやめうりとうひまくらうらくめ

ありのまゝあつてありける事は人所あるもりす
まゝの事にそらくやうされとそのまゝいざりき
えうゑぬとるよゑあくねやとくんやとりゐを
わりて是れある事はくわくふ
せうふ
まゐふとくふれわくまへはうふと今まわうりと
じとのまゝうらうゆうだる
白雲乃處うてうきあうとらうそととくんふよゑ
人うれきくはやくは
口語うとくあくられはまくそとしは
ばらきうきうかくはやくあくられてもとくまくまく
てまくすくらううきうは
れの間うみ
るくらふかそへあはれりふうひまくとまくまく
きのうめうりうへせうけうく
ちきのまへくらうん白山がゆうかうをあくね
とくふれくらううをく
あくのあくへゆく間も考うりられとせ むくらう
在原弓也がくのほひよ月れはくちううたう
うのうとくうりまくまくうはくうう
まくらうかくのあくへゆく別乃くかく
みくらうかくのあくへゆく別乃くかく
かくまくうきくはくうれあく
かくまくうきくはくうれあく
くくまくうきくはくうれあく

とひきれりうらみのうひきりよみをす

藤原のゆき

ききれててくやかにれりす。行はるは風と月と高め
安原のれすくし。月と高めす。月と高めす。
うそこよもとくまく。月と高めす。

うあそりけり。おほくわく。おほくわく。おほくわく。
うあそりけり。おほくわく。おほくわく。おほくわく。

安原のゆきの相

あうりあうれい。あうれい。あうれい。あうれい。
人うみのよみ。あくタマリ。うらかんとく。うらかんとく。

伊豆の雪

たまねうらめ。あくとく。あくとく。あくとく。
あくとく。あくとく。あくとく。あくとく。

出化の附

わきよしむら。梅よし。とく。とく。とく。とく。
うさんやん。みとれ。全利。まよ。のかり。めり。まよ。梅よし。
うさんやん。みとれ。全利。まよ。のかり。めり。まよ。梅よし。

梅よし

あうかく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。
たわらみとく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

五音法師

河原のくよ。風の儀。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
かんきれけり。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
のう。のう。のう。のう。のう。のう。のう。のう。のう。のう。

五音法師

秋の花。あと。あと。あと。あと。あと。あと。あと。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

五音法師

かすらん。かすらん。かすらん。かすらん。かすらん。
かすらん。かすらん。かすらん。かすらん。かすらん。

五音法師

別れ。と。歌。と。歌。と。歌。と。歌。と。歌。と。歌。と。歌。

五音法師

河原のくよ。被れ。白。は。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

五音法師

うそううとひくあんまゐるを思ふえん
あひてやくふとくめん様をつれどもと風と雨とがまたされ
あまねくあらへゆくとけり井の水とくふくいひひきくま
まくわくをりふくわく ほくゆさ

おもむかみのゆにあらゆれ外のあそともなわざをめぐ

たまはうすうれきをぬよめひつこそ別室はあそもまろ

とそめり

ちとま事ひちらひくまくるよお起きたからうりてもありと
古と和す集葉身骨九

翁の巻

とうう一月をもとある

安信仲塵

やうかまわうみげられかひまうみくわよお月と

あめいはむうあうすめとりうつおおかくうふせうう
うらうくじまくろとよてえくらまくとめうりまうと
めうふくらえほうひうりてくらうくたうひくまくと
めうくらえほうひうりてくらうくたうひくまくと

のくらうくたうひくまくとめうくらえほうひくまくと
くらうくたうひくまくとめうくらえほうひくまくと

くらうくたうひくまくとめうくらえほうひくまくと
くらうくたうひくまくとめうくらえほうひくまくと

よめれ原やを鶴をそ見わぬとくよつまよ鑑めけり

詩一卷

後人乞く次

あこづくまくまくれゆつて川う風をくらうとう蜀山

ゆのくとぬるぬゆのあさ夢よ鶴うくれゆくゆくよ思

ふあはあうみのくくうさくらうみもく

かくまくとくよつて川う風をくらうとう蜀山
ゆくとくよつて川う風をくらうとくよ

かくまくとくよつて川う風をくらうとくよ
ひくとくよつて川う風をくらうとくよ
よつて川う風をくらうとくよ

かくまくとくよつて川う風をくらうとくよ

おれりあそひし處まほりけりあくことかくわざふかうれ
ちみよひてあらんちりけりもやあにのき日す
うれめとりひきれハあめりてまくとんじるふみか人
おきけりくとあにあくとあくとあくとあくとあくとあ
さきみくと所とわくさ川のほりよ河をひきま
うねそくぬもありきれえまく人まくあまくせに
あまハ物もくとひきれえされえんあともくひき
とまくとまく

おあおれくと事とんおもわうめぐく令きわりやかや
おきらめ

おきくめくらをぬあつまにひハだくとそぬつづき
がまくわら人男女をぬめに人乃くあくとくめりと
こまくわらめりとまくらみまくられはまひくと
くらむくらむくらむくらのらむくとすてまくらくまく
くらまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

おあおれくと事とんおもわうめぐく令きわりやかや
おきらめ

未嘗度乃あくふせり角 うるめよしりあくふせり

モリノルおほ

ひまむかぬきとよりあくふせりを山 紅葉乃繪物のまえ

家性法所

を向よづり乃繪をまく人 紅葉あくふせり物やくえ

古と和奇集卷第十

物名

友奈とゆき乃羽呂

ゆくもむろあつふうはらううひとねと多れゆくも

ゆき

タキカツミと紀めきや絵傳てあられあれみとく

ゆき

治のうきとくれとゆきみれきわくわくわくわく

ゆき

あくとくわくとくれと玉とけとけとけとけとけとけ

ゆき

阿あくとくれとくれとくれとくれとくれとくれとく

ゆき

うをとくとくれとくれとくれとくれとくれとくれとく

ゆき

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆき

阿あくとくれとくれとくれとくれとくれとくれとくれとく

ゆき

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆき

阿あくとくれとくれとくれとくれとくれとくれとくれとく

ゆき

みくびとくれとくれとくれとくれとくれとくれとくれとく

ゆき

林をとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆき

くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

ゆき

くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

ゆき

くわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

ゆき

織ひらきとみぬあれどもうれしことあつて通
いよしにゆきあそひくゆるふとをとくとくとく
わらうかあけさなむやうにあひうきとひとね
かくすままれきり日傍れ

安信眞行歌

波のあらまきとくとくゆくとまわらしやわらく傳
からふあらゆきとくとまわらしやわらく傳
あらまきとくとくゆくとくとまわらしやわらく傳
波のあらまきとくとくゆくとまわらしやわらく傳
作方

そりのすよあくとゆきれづふきとくとくとくとく

えまくともあけまくと水が静くよかなと秋の下

秋の月のうくわくあくとあくとあくとあくと

むとてあんじよ風をとくとくわくとくとくとく

まくとあじよひらありせ秋の月のうくわくとくとく

あれりまくかくよるぬ険川おきりん時やとくとく

うきなみかあくやとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

